大学入試トレンド解説
ベネッセ教育情報センター

拡大が続く総合型選抜・学校推薦型選抜の実態と支援のポイント

一般選抜を上回るまでに拡大している総合型選抜・学校推薦型選抜。その実態と支援のポイントは何か。ベネッセ教育情報センターが大学を対象に行った、総合型選抜・学校推薦型選抜に関するアンケートの結果を基に解説する。

大学対象のアンケートの結果を基に、総合型選抜・学校推薦型選抜の実態を探る

高校現場に求められる2段構えの支援体制

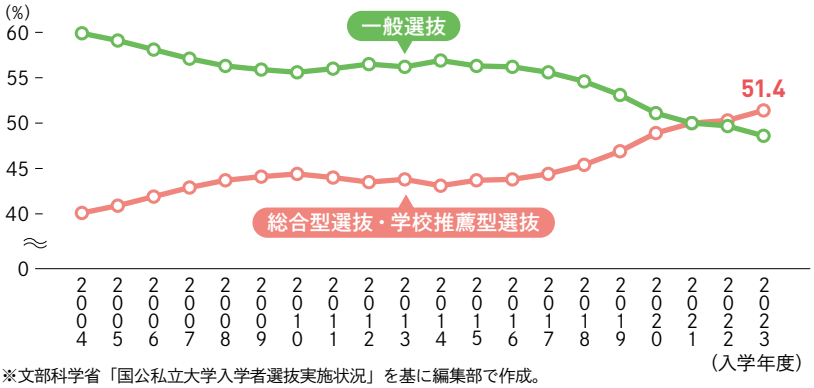
大学入試において、総合型選抜・学校推薦型選抜の拡大が続いている。2023年度大学入試では、総合型選抜・学校推薦型選抜による入学者の割合が51・4％に上った（**図1**）。設置区分別に見ると、私立大学の入学者の6割近くが総合型選抜・学校推薦型選抜で入学している。そして、国公立大学においてもその割合は2割を超えており、24年度入試では総合型選抜・学校推薦型選抜の募集枠をさらに拡大するなど、今後もその傾向は続くと考えられる。

そのような状況を受け、多くの高校では、年内に合否が決まることが多い総合型選抜・学校推薦型選抜と、年明け以降に選抜が行われる一般選抜という、実施時期も実施形態も異なる2つの入試への対応が求められている。生徒の希望進路の実現のためには、拡大を続ける総合型選抜・学校推薦型選抜がどのようなねらいで実施され、生徒のどのような力を、どのような方法で測っているのかを理解した上で、校内に支援体制を構築することが欠かせない。

ベネッセコーポレーション教育情報センターでは、全国の777大学を対象に総合型選抜・学校推薦型選抜に関するアンケートを実施し、総合型選抜・学校推薦型選抜の実施状況などについて、全体の76・1％の大学から回答を得た。次ページからは、アンケートの結果の要点とともに、25年度入試に向けて押さえておきたいポイントを解説する。

調査名　2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート
調査対象　国公私立大学計777大学（国立大学85大学、公立大学96大学、私立大学596大学）
調査時期　2023年10月1日～12月15日
調査方法　郵送法による（回答方法はウェブでの回答またはFAXでの回答）
回答件数　計591件、全体回収率76・1％（国立大学64・7％、公立大学79・2％、私立大学77・2％）

図1　総合型選抜・学校推薦型選抜による入学者の割合の推移



※文部科学省「国公私立大学入学者選抜実施状況」を基に編集部で作成。

総合型選抜・学校推薦型選抜の実施目的と受験生に求めるもの

実施目的は意欲や適性の高い生徒の確保

まず、総合型選抜・学校推薦型選抜それぞれの目的を各大学に尋ねた。「大学での学びに対し、意欲の高い生徒に入学してほしい」「大学での学びに対する適性の高い生徒に入学してほしい」「資質・能力の高い生徒に入学してほしい」「早期に入学者を確保したい」「高大接続の充実を図るため」「高校在学時の活動で実績がある生徒に入学してほしい」の6項目について、「とてもあてはまる」「やあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の5段階で、それぞれの実施目的として該当するものを聞いた。

総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれにおいても、「とてもあてはまる」という回答が最も多かったのは、「大学での学びに対し、意欲の高い生徒に入学してほしい」（総合型選抜89％、学校推薦型選抜85％）であり、次いで「大学での学びに対する適性の高い生徒に入学してほしい」（同68％、同65％）だった。総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれも、実施の主目的が意欲や適性の高い生徒の確保であることが分かる。

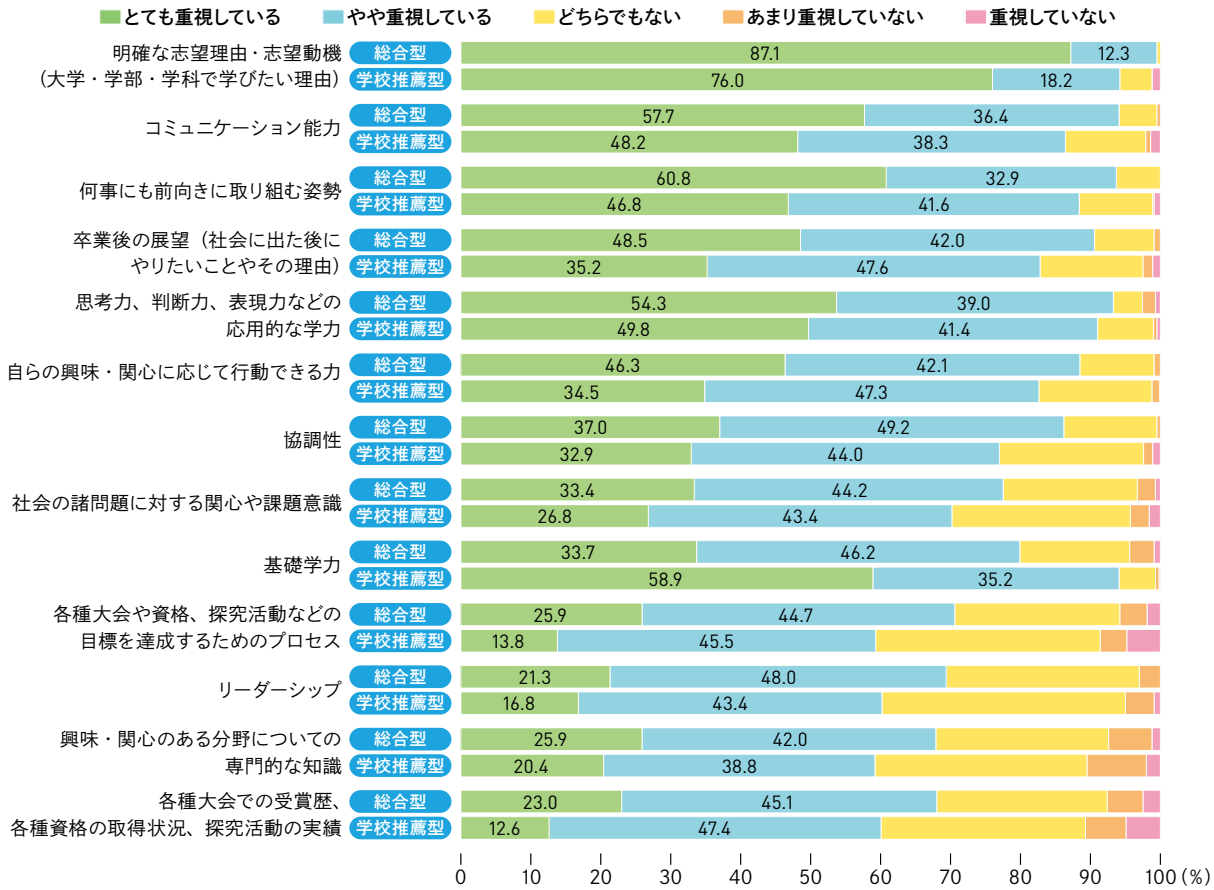
受験生に求めるのは明確な志望理由・志望動機

総合型選抜・学校推薦型選抜において、受験生に何を求めているのかを尋ねた（**図2**）。

総合型選抜・学校推薦型選抜のいずれにおいても受験生に求めるものとして「とても重視している」という回答が最も多かったのが、「明確な志望理由・志望動機」（総合型選抜約87％、学校推薦型選抜76％）だ。

総合型選抜で受験生に求めるものとして「明確な志望理由・志望動機」に続いたのは、「何事にも前向きに取り組む姿勢」（約61％）、「コミュニケーション能力」（約58％）だった。

図2 総合型選抜・学校推薦型選抜で受験生に求めるもの



※数値は無回答を除く全回答数に対する割合。
※ベネッセコーポレーション「2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」を基に編集部で作成。

学校推薦型選抜で受験生に求めるものとして「明確な志望理由・志望動機」に続いたのは、「基礎学力」（約59％）、「思考力、判断力、表現力などの応用的な学力」（約50％）だった。

総合型選抜と学校推薦型選抜の受験生に求めるものを詳しく比較すると、「明確な志望理由・志望動機」を「とても重視している」とする回答割合は、総合型選抜の方が11ポイント程度高かった。同様に、「何事にも前向きに取り組む姿勢」や「卒業後の展望（社会に出た後にやりたいことやその理由）」といった項目も、総合型選抜の方が「とても重視している」とする回答割合が高かった。一方、学校推薦型選抜では、「基礎学力」を「とても重視している」とする回答割合が総合型選抜に比べて顕著に高かった。

以上のように、総合型選抜と学校推薦型選抜のいずれも、大学での学びに対する意欲や適性の高い生徒を確保するため、「明確な志望理由・志望動機」を求めていることが分かった。さらに、総合型選抜においては前向きな姿勢やコミュニケーション能力が求められ、学校推薦型選抜においては基礎学力が特に重視されていることが分かった。

総合型選抜・学校推薦型選抜で重視する選抜方法

最も重視する選抜方法は「面接」

総合型選抜・学校推薦型選抜において最も重視する選抜方法は何かを尋ねたところ（**図3**）、いずれも「面接」を最も重視すると回答した大学が多かった。選抜の際に受験生に最も求めている「明確な志望理由・志望動機」を見るための最適な方法が面接であると、多くの大学が考えているものと思われる。「その他」を挙げる大学も多くあり、その内訳としては、プレゼンテーションやレポートが目立った。学校推薦型選抜では「教科試験」「小論文」を重視している大学も多く、多様な方式で選抜が行われていることが分かった。

今回のアンケートでは、指定校推薦の基準についても尋ねた。51％の大学が「指定校推薦では基本的に不合格にすることはない」と回答したが、そのほかの大学は、面接や学力試験の結果、提出書類の内容によっては不合格にすることがあると回答した。特に「面接の結果によっては不合格にすることがある」と回答した大学は33％に上った。

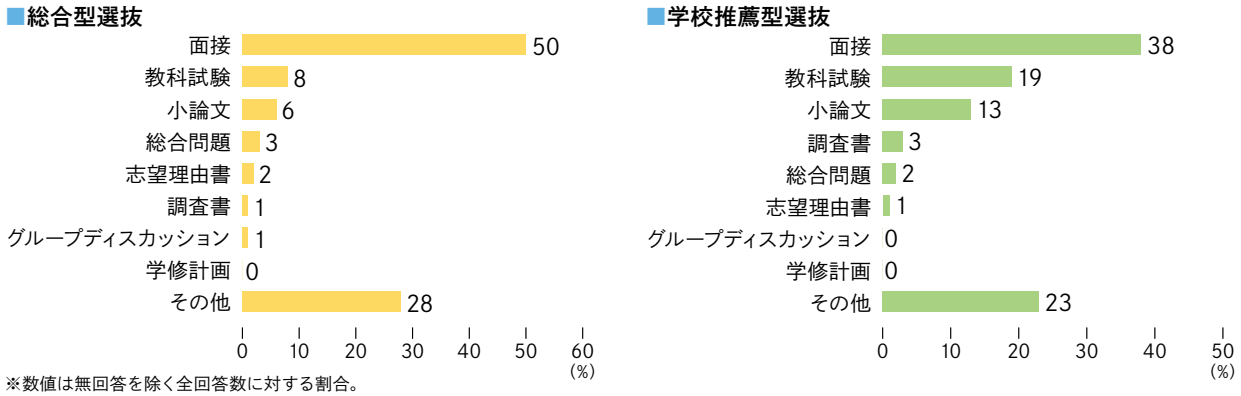
総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した学生の特徴

入学後の学びや諸活動に積極的に取り組む学生が多い

本アンケートでは、総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した学生の特徴についても尋ねた（**図4**）。

総合型選抜で入学した学生の特徴について、「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の回答割合の合計が最も高かったのは、「大学の授業以外の活動

図3　総合型選抜・学校推薦型選抜で最も重視する選抜方法



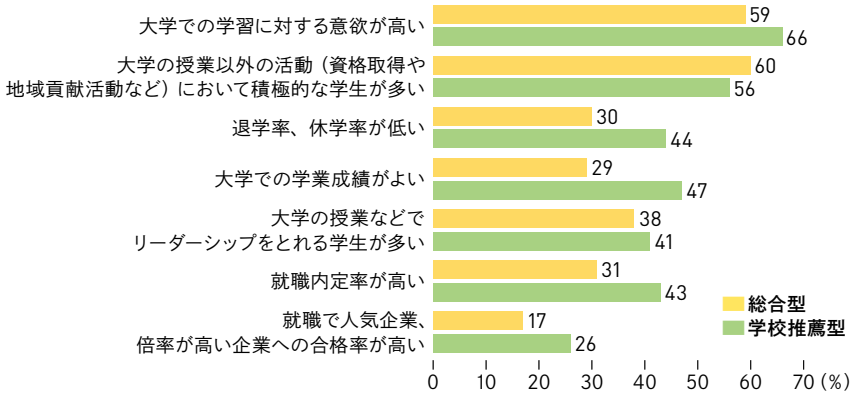
※数値は無回答を除く全回答数に対する割合。
※ベネッセコーポレーション「2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」を基に編集部で作成。

（資格取得や地域貢献活動など）において積極的な学生が多い」（60％）だった。次いで高かったのが「大学での学習に対する意欲が高い」（59％）だった。設置区分別に見ると、国立大学では「大学での学業成績がよい」（39％）が比較的高かった。

学校推薦型選抜で入学した学生の特徴について、「とてもあてはまる」と「ややあてはまる」の回答割合の合計が最も高かったのは、「大学での学習に対する意欲が高い」（66％）だった。次いで高かったのが「大学の授業以外の活動（資格取得や地域貢献活動など）において積極的な学生が多い」（56％）だった。設置区分別に見ると、国立大学では「大学での学業成績がよい」（64％）が高く、公立大学では「大学の授業以外の活動（資格取得や地域貢献活動など）において積極的な学生が多い」（67％）が高かった。

以上のように、いずれの大学も意欲や適性の高い生徒を確保するために、総合型選抜・学校推薦型選抜では明確な志望理由・志望動機を持っているかどうかを主に面接で見ており、同選抜で入学した学生は、大学での学習はもちろん、それ以外の活動にも積極的に取り組んでいるようだ。そのような状況を考えると、今後も総合型選抜・学校推薦型選抜は重要な選抜方式として拡大すると思われるため、学校現場には、総合型選抜・学校推薦型選抜への組織的な対応がより求められると言えるのではないだろうか。

図4　総合型選抜・学校推薦型選抜で入学した生徒の特徴



※数値は無回答を除く全回答数に対する「とてもあてはまる」と「まあてはまる」の回答割合の和。
※ベネッセコーポレーション「2023年度学校推薦型選抜・総合型選抜に関するアンケート」を基に編集部で作成。

解説まとめ

生徒の「マイ・ストーリー」構築の支援が求められる

明確な志望理由・志望動機が求められる総合型選抜・学校推薦型選抜では、その方法として面接が最も重視されている。そして面接では、自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望を「マイ・ストーリー」として語ることが重要であり、日頃の生徒との面談では、生徒の「マイ・ストーリー」を引き出すことが教師には求められる。

現在の学校現場では、特に総合型選抜・学校推薦型選抜において、出願準備や小論文・面接指導の負担感は小さくない。指導を効率化するとともに、各校に合った効果的な指導方法を模索しながら、生徒の「マイ・ストーリー」構築の支援に注力できる仕組みづくりが求められている。

1
大学は受験生に明確な志望理由・志望動機を求めている

2
大学が最も重視している選抜方法は面接

3
高校に求められるのは指導の効率化と生徒の「マイ・ストーリー」構築の支援